

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0991100025		
法人名	有限会社マイホームコリーナ		
事業所名	グループホーム来夢		
所在地	栃木県矢板市石関1317-3		
自己評価作成日	令和4年9月10日	評価結果市町村受理日	令和5年4月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.wam.go.jp/wamapp/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/aHyokaTop?0
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 栃木県社会福祉士会
所在地	宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3階 (とちぎソーシャルケアサービス共同事務所内)
訪問調査日	令和4年10月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個人の尊厳や自由、選択を尊重安心を大切に、高齢者が敬われつつ安全で自由に生き生きと笑顔のある日々を過ごせるよう支援しております。また、家庭菜園や散歩、趣味活動やレクリエーションなどに力を入れ利用者様の残存機能活性化を図り、職員と一緒に活動しております。また、ご家族にも個別に対応させて頂き、一緒に考え、皆が受けたいと思う、ケアを提供しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・当事業所は平成19年7月に開設され、JR片岡駅近くに所在するグループホームである。全室南向きで部屋6.2畳の空間、建物の周りは畑や里山が広がり自然環境が豊かである。
 ・地域とのつきあいにおいては、事業所前の道路が小学校への通学路であり、小学生の登下校の姿を見ることができる。玄関先には子供用のベンチと給水所を設け、無料休憩所として解放している。「子ども110番の家」として地域の見守りに貢献しており地域住民との良好な関係が築かれている。
 ・コロナ禍ではあるが、感染対策をしっかりと友人等の訪問の受入れを行っている。日常的な外出支援は感染予防をしながら近隣の名所へ外出支援をしている。春は桜やツツジ等のお花見、秋は鮎狩りやリンゴ狩り、紅葉ドライブ等、自然の恵と豊かさを享受している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業者理念を目につく場所に提示し、常に意識して、行動指針として業務に励んでいる。	事業所の理念は、ホール及び相談室の壁に掲示している。毎日の申し送り時やスタッフ会議時に全員で唱和して、意識の定着化と実践につながるようしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、地域の行事には可能な限り協力、参加している。又、通学路に面しているので子供達に声掛け、見守り、給水所を作り水の提供等をしたり、近所の方々への挨拶、時に世間話をするなど日々交流を心懸けています。	利用者は、事業所近くの畑に来る農家の人との会話を楽しんでいる。また、事業所の玄関先にベンチを設置し、誰もが気軽に立寄れる場所を提供している。「子ども110番の家」にも指定され地域防犯活動にも寄与している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談に来られる地域の方に対し、認知症への対応、介護サービス利用に関する事など情報提供をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回の運営推進会議を開催しており、利用状況や現状を報告し、そこで出た意見や提案を反映している。また環境整備にも活かしている。	運営推進会議は、地域住民代表や有識者、区長、家族代表、市職員、地域包括支援センターの職員、施設長、管理者が参加して2か月に1回事業所で行われている。会議の内容は、運営状況報告や行事・事故報告等が行われている。事業活動の理解や意見交換・情報共有等を行いサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とは必要に応じて連絡を取り合い、グループホーム交流会(コロナの為現在中止中)介護サービス事業者連絡協議会に参加し、情報などを受けサービスの質の向上に繋げている。入退所者事故については必ず報告して指示等をいただいています。	市の担当者とは、通知文書や報告等を通じ連絡を取っている。以前は市主催のグループホーム交流会が行われ、法令でわからない事や施設の問題点の意見交換を行っていたが、現在はコロナ禍で中断している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを設置、内部研修にて身体拘束を学び意識付けを行っている。身体拘束の無い様、細心の注意をはらっている。身体拘束委員会を2ヶ月に一回開催している。	身体拘束予防マニュアルは整備されている。身体拘束関係の外部研修を受講した担当者が事業所内の勉強会の講師となり、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、スタッフ会議等でも日常業務における言葉遣いや虐待に繋がらないためのエスカレーション対処方法を学んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体者虐待対応マニュアルを活用し内部研修を行い虐待についての意識付けを行っている。日常のケアにおいて言葉や仕事、身体的虐待が発生しないよう細心の注意を払い虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加する機会を設けるとともに、内部研修を行い知識の向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、本人、家族に十分な説明を行い、不安や疑問点をお聞きし、理解、納得を得ている。また改定時には書面をもって説明し理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に入居者様との会話を大切にその思いを把握し人間関係、信頼関係を築きあげるよう努力している。また入居者様が不満や意見を言えるような環境作りをしている。面会時には家族とも話し合いその思いを知り運営にも反映させている。	家族等の意見要望は、利用者の通院や利用料金支払い等で事業所に訪れた際に伺っている。利用者の意見要望は、日常の支援の中で把握し、反映するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月スタッフ会議を行い、スタッフの意見を取り入れ働きやすい職場づくりに努めている。また可能な限りスタッフの意見を反映している。	管理者は月1回のスタッフ会議や毎朝実施する業務の申送りの際に職員からの意見要望や提案を聞いている。職員の意見から喫煙場所や浴室の整備等が検討されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者自ら職場を視察し、スタッフと会話するなどして、日頃の思いや困りごとを把握し、気持ち良く働ける環境・条件づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修直は必要に応じて個別に参加を促しており、研修で得た知識は内部研修で報告している。また各月、議題、担当者を決め内部研修を行いスタッフの意識向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ禍の為、定期的なグループホーム交流会は難しくなっているが、日頃の問題点や取り組みの情報を交換し、サービスの質の向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の情報や、面接時に本人が困っている事、望んでいる事等を傾聴し入居後も担当者を中心に信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に、困っている事、不安な事、要望等を気兼ねなく話せる機会を作り、より良い関係が持てる様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	問い合わせや見学時において利用者様の状態を伺い、グループホーム対象者様でない場合は利用者様に適していると思われる事業所、又は、相談先(包括等)を紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	季節の行事、郷土料理やその伴う行事食などを教えて頂き一緒に料理を行って居る。また昔の話や行事、生活などを聴いて支え合う関係を築いている。家庭菜園も教えて貰いながら行い、収集を楽しみ、味わっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃より気楽に話が出来る環境作り心掛けています。面会時には普段の様子を報告し、情報の共有を務めています。また困りごと等を相談し家族の協力を得て支援している。コロナ禍ではあるが、月に一度の面会をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍ではあるがコロナ対策をしっかりと、友人の訪問や自宅訪問等を行い家族と一緒に過ごしてもらう時間を大切にしている。又、地域の敬老会などの参加など本人の希望に合わせた支援を行って居る。	地域の友人が自転車や歩きでの訪問がある。家族の対応で行きつけの美容院に行く利用者もいる。一時帰宅や外泊も家族の協力により実現している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同作業やレクリエーションを通じて、より良い関係作りに努めている。また利用者同士が声掛け合い、お互いを心配したり、助け合う姿も見られ今後も継続出来るよう支援して行きたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も気軽に来ていただけるよう働き掛け、街中で挨拶を交わしたりその後の様子をお聞きする事もあり、気軽に相談できる相談窓口となるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の日常生活の中で思いや意向を聞き取り、日々の会話、表情、仕種から本人の思いを推し図っている。	利用者のほとんどは、意思疎通が可能であり職員は本人の意向を聴いている。帰宅願望が強い時は、利用者宅付近をドライブして対応している。また、お墓参りなどの付き添い支援も行っている。	職員は利用者が表現できる意向だけでなく、本人が気づいていない要望を察して支援できるように期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居後、日々の会話の中から以前の生活の様子や子供達の話しを聞かせて頂き、情報の収集に努めている。また家族の面会時には生活状況を報告しそ都度話を伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者ひとり一人の身体状況を日々確認し、本人が出来る事を見出し、その方の状況に応じた一日が過ごせるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会時に現状報告や月々のご様子記録を基に意見やアドバイスを頂き、それらを担当者中心としたカンファレンスで検討し介護計画書を作成している。	利用者・家族等の意向を踏まえ、ケアマネジャーが介護計画を作成している。また、訪問看護師の意見も取り入れて作成されている。毎月、モニタリングを行い利用者の健康状態に合わせた介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を各個人の介護記録に記入し、毎日の申し送り時に気づきや疑問点などを職員間枝話し合い、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況により、その都度要望に応えられるよう支援に努めている。急な外出、外泊、通院などにも柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、ボランティアとの協力は難しくなっているが、消防署の指導のもと、定期的に避難訓練を実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所として協力医を設定はしているが、本人、家族の希望する医療機関を定期的に受診している。受診ノートや血圧記録ノートを作成し、家族、医師との連携に努めている。又、上申書をもって主治医に報告、指示を仰ぐこともある。	利用者は入居前からのかかりつけ医を家族の送迎で受診している。受診の際はバイタル等を記載し医師への情報提供をしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームの為、介護職が無い為、看護師免許を持っている職員を中心に毎日の健康管理、内服薬監理を行っている。また必要に応じて協力医の助言・指導を受けている。現在訪問歯科を受けている入居者様もいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報用紙を作成し、情報を提供している。又入院中は病院の担当者等と連絡を取り情報交換や経過を確認し、必要に応じて家族と今後の方向性を話し合っている。通院時には可能な限り拡大カンファを開いて頂き、家族とともに主治医又は担当看護師より情報を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の対応については契約時に説明している。又急変時には家族が不安になるのでその都度説明し、グループホームでは「出来る事・出来ない事」が有る事を家族に伝え、主治医と相談しながら支援している。	重度化した場合や終末期については、入居時に本人・家族に事業所で看取りが出来ないことを説明している。利用者の住み替えの時期は、医療的なケアが増加した場合としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に内部研修を行い、知識・技術の向上を図っているが、職員によっては不安がある。普通救命講習を職員が受講するよう促している。今後事業所から申し込みをして受講してもらう予定です。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回消防員立会いのもと、避難訓練を行い知識、技術の習得に努めている。近隣の運営指針委員の方々の連絡網を作成し協力を得ている。	年2回消防署立会のもと避難訓練を実施している。災害時の緊急連絡網を作成し近隣の関係者の協力を得るようにしている。災害時の水・食料等の備蓄は3日分を確保している。なお、近隣への避難ルートについては、災害の状況により見直しが検討されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや接遇については、利用者の尊厳が守られるような接し方・言葉使いを心掛け、必要に応じて対応の見直しを図っている。又着替えやトイレ時には戸やカーテンを開けて他者から見えないよう配慮している	法人主催の接遇研修を実施し職員の言葉遣い等を見直している。職員は利用者のプライバシーに配慮するとともに、本人の自尊心を傷つけない支援に務めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員本意で事を勧めるのではなく利用者本人の意向を確認し、利用者主体で自己決定出来るよう、心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	コミュニケーションを大切にひとり一人の体調や希望・意思等に配慮しながら個々のペースにあった過ごし方が出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に近隣の理容師に来所して頂き、散髪を行っている。日常の衣類も本人の要望を優先に季節感や職員の助言を交えながら着こなせるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在い業者に頼んだ温め調理になっていますが、季節にあった野菜・果物等、副食に一品添えるなどして職員と一緒に会話をしながら食事をしています。又、ヨモギを散歩の帰りにとって来て、草もちを作ったり、おはぎを作るなどして楽しんでます。	食事は3食とも外注食品を利用し、調理時間の短縮を図っている。その分、利用者との食事での会話の時間を多く取るようにしている。職員は食事の準備や後片付けを利用者と一緒に行っている。誕生会等では行事食として、利用者が職員と一緒に手作り料理を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事、水分摂取量を観察すると共に、介護記録に記載している。又利用者様ひとり一人の咀嚼や嚥下状態を把握し、その人にあった調理方法及び介助方法を日々研究している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。出来ない方は介助し、出来る方も声掛け、見守りを行っている。時により自尊心を損ねないよう配慮し、舌苔の確認も行い、舌磨きもお願いしている。又リハビリ体操時にも口腔体操を組み合わせて行っている。自分の口で食事が摂れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	各利用者様の排泄パターンを記録、観察し、把握に努めている。出来るだけトイレの排泄が出来るよう、トイレ誘導や、声掛けを行うようにしている。	ほとんどの利用者は一人でトイレに行くことができる。利用者の排泄パターンを記録して、便秘などの予防に繋げている。夜間もトイレでの排泄が中心であるが、室内にポータブルトイレを設置することもできる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	消化の良い食材を取り入れ、適量の水分の確保、運動を行い予防に努めている。便秘気味の方には主治医と話し合っただき、便を柔らかくする薬や下剤の処方をお願いしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は1日置き週3回を基本として居る。1対1で支援している。順番は業務日誌に記録し同じ方が何時も1番にならないよう工夫している、ただし、農作業で汗をかいた時は入浴・シャワーを希望により柔軟に対応している。冬には林檎や柚子風呂を楽しんで頂いて居る。	利用者は週3回、個浴で入浴している。利用者の希望で午前又は午後の入浴ができる。浴室での1対1のコミュニケーションは大切な利用者の思い等を知る機会でもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は適度な運動や活動を取り入れ、メリハリのある生活リズムを作る事を心がけ、夜間の安眠に繋げている。又ひとり1人の体調に合わせて身体に負担のないよう、日中でも静養時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬はファイルを作り個々に収納・名札を付けて管理し開くと薬の説明書が一目でわかるようファイルされている。又、症状に変化が生じた場合には家族を通じて主治医に報告をしている。スタッフに対しても定期的な内部研修を行い知識の向上に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の生活歴や職歴などの情報収集を行い、やりがいや喜びを感じて頂く事の出来る役割活動やレクリエーション活動を心身の状態に合わせて1日の活動に取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為プチ外出(散歩や近隣のドライブ)を行っている。また家族と相談し正月やお盆の帰宅、墓参り、等本人の希望に添える様支援している。近場であるが(紅葉狩り・やな・芝居見物)等、家族に相談しながら行っている。	コロナ禍ではあるが、感染に注意しながら散歩や近隣のドライブを行っている。春は花見、秋は紅葉やリンゴ狩り等を楽しんでいる。また、家族の協力により正月に一時帰宅し外泊している利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設で金銭は所持しない事になっている。現在自己管理の出来る方がいないため、必要時にはホームで立て替え買い物を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や本人から規制が無ければ自由にして頂いている。手紙や電話で家族と連絡を取り合っている。なかには、海外の家族と連絡を取り合っている入居者様もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	活動時やイベント毎の写真や季節毎に入居者と作成した飾り物を壁面に飾っている。大きな窓からは外の景色が見渡せ又窓を開けると鶯などの囀り声が聞こえ季節や自然が感じられる。ホールにはソファを置きゆったりと過ごせるようにしている。	ホールや廊下の天井が高く、戸外の自然光が室内に入り、明るい共有空間作りとなっている。利用者は、テーブルでお茶や会話を楽しむなど、それぞれが思い思いにゆったりした時間を過ごしている。ホールの南側に張り出したベランダで日光浴も楽しめる。	部屋のドアやロッカー等の施錠キーの見直し、共有フロアに設置された劣化した椅子の入替え、トイレの仕切りカーテンをドアに変更の改善等、安全やプライバシーに配慮した居住環境の改善を期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	対人関係、車椅子利用者や歩行状態等により席を決めているが、食事以外は自由に使っている。利用者によりテレビを見たり、談話をしたり、新聞を読んだり、歌を聴いたり用途は様々である、		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は全南向きとなっており、あかるい空間となっている。本人、家族と相談の上、慣れ親しんだ家具や寝具の持ち込みにも柔軟に対応し、本人にとって落ち着ける空間作りに努めている。又、カレンダーや写真の掲示等も自由にして頂いて居る。	居室は、全室南向きで太陽の光が入り明るい造りである。備付はエアコンやロッカー、ベッドが設置されている。家族と相談して、使い慣れた家具やテレビ、思い出の写真等を持ち込み、居心地の良い空間を作っている。部屋の清掃も行き届き、清潔感が感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリー仕様となっており、自力歩行車、車椅子使用者共に安全に移動出来る様になっている。又、ホール内や廊下には歩行の妨げになる様な物は置かないように配慮している。		